

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
4thQ	1年	1単位	必修
担当教員			
牟田・中野・小松・章・小嶋			

講義概要	ギャップイヤーで経験した、「留学」「インターンシップ」「サービスマーケティング」などから得たこと、学んだことを明確にし、言語化し、表現する。ここで得られたことを基礎に、2年次で実施する、地域（黒島、高島、相浦）への提案を考え、具体的に地域活動の目標やシナリオを考える。
授業計画	<p>12/6 3コマ目：3rd Quarter振り返り ギャップイヤーを振り返り、「学修成果記録ノート」に記入する。 特に課題について明確にする。</p> <p>12/6 4コマ目：プレゼン準備① 3rd Quarterで経験したことについて、プレゼンしたいコンテンツを抽出する。 プレゼン準備に取り掛かる。</p> <p>12/13 3コマ目：プレゼン準備② 3rd Quarterで経験したことのプレゼン準備をする。</p> <p>12/13 4コマ目：プレゼン準備③ プレゼンを仮作成する。</p> <p>12/20 3コマ目：効果的なプレゼンに関して（個別指導）① 仮作成したプレゼンについて個別指導を受け、課題を明確にする。</p> <p>12/20 4コマ目：効果的なプレゼンに関して（個別指導）② 仮作成したプレゼンについて個別指導を受け、課題を明確にする。</p> <p>1/10 3コマ目：プレゼン準備④ 個別指導を受け、明確になった課題の改善をしながら、プレゼン準備を行う。</p> <p>1/10 4コマ目：プレゼン準備⑤ 個別指導を受け、明確になった課題の改善をしながら、プレゼン準備を行う。</p> <p>1/17 3コマ目：プレゼン準備⑥ 改善したプレゼンを相互に発表し、外部講師に見てもらう前の最終調整を行う。</p> <p>1/17 4コマ目：プレゼン準備⑦ 改善したプレゼンを相互に発表し、外部講師に見てもらう前の最終調整を行う。</p> <p>1/24 3コマ目：外部講師による特別講義 9 完成したプレゼンを発表し、評価を受ける。さらに改善点について知る。</p> <p>1/24 4コマ目：外部講師による特別講義 10 完成したプレゼンを発表し、評価を受ける。さらに改善点について知る。</p> <p>1/31 3コマ目：「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす方法」を考える① グループごとに、「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす」ことを念頭に意見交換をする。</p> <p>1/31 4コマ目：「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす方法」を考える② グループごとに、「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす」ことを念頭に意見交換をする。 意見を集約し、発表の準備を行う。</p> <p>2/7 3コマ目：「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす方法」のグループ発表 「ギャップイヤーでの経験を地域活動へ活かす方法」のグループ発表を行い、相互に評価する。</p> <p>2/7 4コマ目：4th Quarter振り返り ギャップイヤーを経た4th Quarterの学び・成長についてまとめ、「学修成果記録ノート」に記入する。 2年進級時に取り組みたい課題を明確にする。</p>
授業形態	演習
到達目標	<p>「検証ターム」計画立案力（目標設定・シナリオ構築）：「実践期」に体験したことをベースに、検証を行い、実際に地域活動で行うプロジェクトの目標を設定し、実際に実行するシナリオを構築することができる。</p> <p>①様々な取り組みにおいて、正しく情報を収集し、分析することができる。</p> <p>②地域活動における課題を発見することができる。</p> <p>③地域を知る活動の内容を効果的にプレゼンテーションすることができる。</p> <p>④地域の人たちを含めていろいろな人とコミュニケーションができるようになる。</p> <p>⑤先輩より留学やインターンシップなどの情報を得て、自分の成長につなげることができる。</p>
評価方法	グループ活動への取り組みに対して総合的に評価する。
評価基準	フィールドワーク感想レポート（30%）、最終プレゼンテーション（70%）
教科書・参考書	授業中に指示をする。
履修条件	

履修上の注意	コミュニケーションが特に重要な科目です。普段から、いろいろな人とコミュニケーションをとるように心がけてください。
オフィスアワー	木曜日（14:50-18:00） *その他、空きコマ（研究室ドア掲示）も可
備考・メッセージ	グループワークは、メンバー同士のコミュニケーションが非常に重要となります。「ほう（報告）れん（連絡）そう（相談）」を頻繁に行い、グループプロジェクトを完成させてください。